



PART.4 Sustainability

社会・環境への価値追求と
事業活動の両立

従業員の成長を促し、 安心して働くことのできる 職場づくり

セブン銀行の持続的な成長にとって「人材」が最も重要な財産です。従業員一人ひとりが最大限能力を発揮し活躍できる環境づくりに取り組むとともに、ワークライフバランスを実現できる制度を整えています。

成長する機会を提供

セブン銀行は従業員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、事業の拡大を通じて、成長する機会を提供しています。

教育・研修制度の整備

● 従業員の成長意欲をサポート

会社が成長するためには、一人ひとりが能力を高めていくことが重要です。当社では、従業員の成長を「プロとしての力を育むステージ」と「プロとしての力を発揮するステージ」とに分け、各ステージに必要な知識やスキルを習得するためのさまざまな研修を実施しています。また、さらに外国語でコミュニケーションがとれる人材育成にも力を入れており、通信教育に対する補助や外部研修を活用した語学の習得支援を行っています。

主に実施している研修等

- ▶ 新入社員研修
- ▶ 中途入社者研修
- ▶ 大学院等派遣(2017年度2名)
- ▶ 海外研修派遣(2017年度2名)
- ▶ コミュニケーション研修
- ▶ 各種通信教育への補助(2017年度116名)

Voice

経済産業省主催「始動Next Innovator 2017」にて、半年間の国内プログラムを経て、シリコンバレー派遣メンバーに選出されました。社外の多様なキャリアを持つメンバーとの交流を通じ、知識、スキル、マインド、大切な仲間との絆、多くのものを得ました。これらの経験をふまえ、変化への対応と基本の徹底を肝に銘じて業務に取り組んでいます。

お客さまサービス部 島田 康彦



● 挑戦する姿勢の尊重

従業員が自ら挑戦する姿勢を尊重しています。そのサポートとしてさまざまな機会を設け、2017年度は昨年度に続き、従業員の事業創造への意欲を高めるべく外部の起業家を招いたセミナーや新規事業を発想するワークショップなどを実施しました。オープンイノベーションの取組みの一環として新世代ATMで提供する新サービス・事業の提案を社内外から募り、経営陣や協賛企業へのプレゼンテーションを経て、複数案件を採択し、事業化に向けた検討を開始しました。



社内プレゼンテーション



社外向けイベントの案内

安心して働くことができる環境づくり

従業員が持つ能力を最大限に発揮するためには安心して働ける環境が必要です。当社にとって重要な人材が個人の事情で実力を発揮できないことがないよう、柔軟な働き方の実現に向けたさまざまなサポートを行っています。

多様性の確保

● リ・チャレンジプラン

出産や子育て、家族の介護をしながらも勤務を継続し、または一時休職後でもスムーズに復職できるよう、支援するプランを設けています。

● 在宅勤務制度

妊娠や子育て、家族の介護、自身の負傷などの理由で通勤が難しい場合でも勤務を継続できるよう、在宅勤務制度を設けています。

従業員・雇用に関するデータ

【2018年3月末現在】

従業員数(男/女) ^{※1}	468人(297人/171人)
パート社員数(男/女) ^{※2}	13人(7人/6人)
派遣スタッフ社員数(男/女)	21人(5人/16人)
従業員平均勤続年数	7.3年
女性管理職比率 ^{※3}	14.7%
障がい者雇用率	2.40%
有給休暇取得率	86.9%

※1 従業員は、役員、執行役員、当社からの社外への出向者、パート社員、派遣スタッフ社員を除き、社外から当社への出向者を含む。

※2 パート社員数：1日8時間換算による月平均人員。

※3 女性管理職比率は、当社からセブン&アイグループへの出向者およびセブン&アイグループ外からの出向者を除き、セブン&アイグループから当社への出向者を含む。

【2017年度】

正社員(特定職)への登用人数(男/女)	3人(0人/3人)
育児休職取得者数(男/女)	16人(2人/14人)
介護休職取得者数(男/女)	0人
育児・介護を事由とした短時間勤務制度利用者数(男/女)	20人(3人/17人)
在宅勤務制度利用者数(男/女)	8人(3人/5人)
ボランティア休暇取得件数	15件
労働災害度数率 ^{※4}	0
労働災害強度率 ^{※5}	0
ヘルプライン受付数	2件
1月当たりの従業員の平均残業時間	17.7時間

※4 労働災害度数率 = (労働災害発生件数/のべ労働時間) × 1,000,000

※5 労働災害強度率 = (労働損失日数/のべ労働時間) × 1,000

● 社員登用制度

2016年度より、契約社員・アソシエイト社員(契約社員から無期雇用転換した者)のうち、一定の条件を満たした場合、社員へ登用する制度を設けています。

● 嘱託社員制度

60歳の定年を迎えた後でも、本人が希望すれば65歳まで嘱託社員として勤務できる制度を設けています。

● 障がい者雇用

ノーマライゼーションの観点から障がいのある方が能力や適性を活かして働ける環境を整備しています。

● 介護研修の実施

介護に直面しても制度を上手に活用することで、勤務を継続できることを周知するため、介護研修を実施しています。

● 女性活躍の推進

女性の活躍推進に関する状況などが優良な企業として、「えるぼし認定」の5つの評価項目すべての基準を満たし、厚生労働大臣から最高位である3段階目の認定を受けました。当社はこれからも、従業員がさまざまな働き方をしながら活躍できる環境の整備に一層取り組んでまいります。

女性活躍推進法に基づく「えるぼし」企業に認定



次世代育成支援対策推進法への対応

セブン銀行では、従業員のワークライフバランスの実現に向けて、「一定水準以上の育児休職取得」「会社と従業員の生活双方を尊重できる環境の改善」「従業員やその家族がワークライフバランスのあり方を検討できるような施策実施」に取り組んでいます。

「くるみんマーク」[※]を取得

2015年6月には「子育てサポート企業」として2度目の厚生労働大臣の認定を受け、「くるみんマーク」を取得しました。

※「くるみんマーク」とは、「次世代育成支援対策推進法」に基づいた育児支援の行動計画に取り組み、実績が認められた企業が使用できるマークです。



Voice

2度の育児休職とも快く送り出してもらい、子育てに専念できる貴重な時間をいただきました。休職中も会社から社内情報の共有があり、職場を離れている不安を小さくすることができました。休職前と同じ管理職として復職しましたが、上司をはじめ周囲の理解とサポートにより安心して仕事と育児を両立することができています。

ATMソリューション部 内田 万美子



地域・社会の発展のために

● 多文化共生を応援

海外送金サービスをご利用のお客さま向けに、9言語に対応した「海外送金アプリ」を提供しています。このアプリを通じた地域情報の発信を主な目的として、外国人が多く暮らす地方公共団体と多文化共生の推進に関する協定を締結しました。これに伴い、当該地域にお住まいの方向けに、暮らしの情報や災害情報などを多言語で発信しています。

セブン銀行が多文化共生に関する協定を締結した自治体 (2018年3月末現在)

2016年9月	愛知県名古屋市
2017年2月	岐阜県可児市
3月	愛知県
4月	神奈川県
5月	神奈川県川崎市
10月	東京都新宿区

※ 2018年3月には長崎県大村市と「観光推進に関する協定」を締結。

Voice

「日本で生活する外国人の方の生活を、もっと便利に」 Seven Bank is your partner in Japan!

海外送金サービスをご利用されるお客さまの声から、日本に住む外国人の方が、さまざまな「不」(不安、不便、不満)を抱えながら生活していることがわかりました。少しでもその「不」が軽減できればという想いから、地方自治体と連携して海外送金アプリによる多言語での情報発信を始めました。今後も、官民連携を図り、事業活動を通して多文化共生の実現に、少しでも貢献できればと思います。



海外送金推進部 山田 敦子

● 認知症サポーターの育成

従業員の認知症に対する理解を深め、認知症の方やそのご家族が安心して暮らせるまちづくりを支援するため「認知症サポーター※」の育成に取り組んでいます。現在86名が認知症サポーターの資格を取得し、地域社会の安心・安全に貢献しています。

※ 認知症について正しく理解し、認知症の方やご家族を温かく見守り支援する応援者。

● 地域のボランティアに参加

東京都千代田区に事業所を置く企業とその従業員が協働し、地域貢献活動に取り組む「ちよだ企業ボランティア連絡会」に参加しています。良き企業市民として、地域社会とのコミュニケーション強化を図るものです。

2017年度は、特別養護老人ホームでのボランティアや、区役所で行われた福祉まつりなどに参加しました。



サンタボランティア

● 「森の戦士ボノロン」への協賛

2005年6月より、読み聞かせ絵本「森の戦士ボノロン」に協賛し、偶数月に毎号約100万部をグループ会社のセブン-イレブンやデニーズ、ファミリー、ヨークベニマル、セブン銀行有人店舗などで配布しています。

この絵本は、読み聞かせを通じて生まれる子どもの「なぜ?」「どうして?」が親子のコミュニケーションにつながることを期待して発行されています。



©NSP2005、©ボノロンといっしょ。2007

Topics

全国2,799カ所の児童館に読み聞かせ絵本「森の戦士ボノロン」を寄贈

セブン銀行では、2011年より社会貢献型キャッシュカードを発行しています。これは、「森の戦士ボノロン」がデザインされたキャッシュカードを一枚発行するごとに100円をセブン銀行が拠出し、全国の児童館に絵本を寄贈するものです。

2017年度は54,783人のお客さまにボノロンキャッシュカードを選んでいただき絵本を製作し、全国2,799カ所の児童館に絵本を寄贈しました。

2018年4月には、目黒区平町児童館(東京都)で絵本の贈呈式を行うとともに、集まった子どもたちに大型絵本を使った読み聞かせを行いました。



● 被災者・被災地の支援に向けた活動

地震や台風などで被災された方々を支援する募金活動を実施しています。セブン銀行WEBサイト内に特設ページを設け、お客さまや従業員からの募金を受付けています。

また、グループ全体の取組みとして、被災者の生活を支え、被災地の復興を支援する活動を継続して行っています。

災害名	時期	募金額	お届け先
台湾東部地震	2018年2月	112,250円	花蓮県(台湾)

● セブン銀行クリック募金

セブン銀行WEBサイトでは、セブン銀行がお客さまのクリック回数に応じた金額(1クリック=1円)を寄付する「クリック募金」を実施しました。

募金名称	時期	募金額※	お届け先
音声ガイダンスサービス 知って!広めて!キャンペーン	2017年12月	578,989円	ラジオチャリティ・ミュージックソン (ニッポン放送など主催)

※ 募金額は、クリック募金に加えセブン銀行口座をお持ちのお客さまや従業員からの募金などの合計額です。「音声ガイダンスサービス 知って!広めて!キャンペーン」については、音声ガイダンスのご利用回数に応じた寄付金拠出も含まれています。

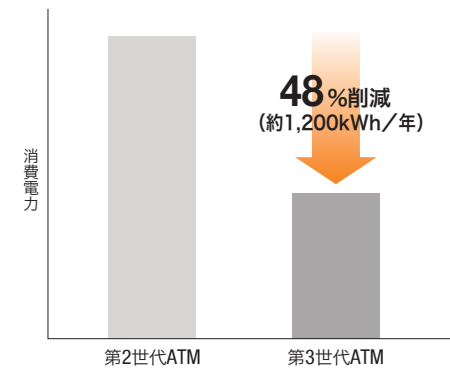
気候変動問題への取組み

省エネを中心に CO₂排出量削減を推進

第3世代ATMでは、第2世代ATMに対して消費電力を約48%削減しました。全国約24,000台以上のATMがすべて第3世代ATMに入れ替わったことにより、年間で約16,000トン※のCO₂排出量削減になります。最新技術を積極的に導入し、お取引がないときは常に省エネモードにしたことや、ディスプレイのバックライトをLEDにしたことで、大幅に消費電力を削減できました。また、長寿命部品、リサイクル可能な素材を使用しており、資源の有効利用を推進しています。また、古くなったATMとUPS(無停電電源装置)バッテリーは、リサイクル業者を通じて再資源化につなげています。

※ CO₂排出量を1Wh=0.579gで換算。

ATM消費電力の比較



FSC認証紙の活用

ATMに備付けている現金封筒や各種リーフレット、セブン-イレブンなどで配布している読み聞かせ絵本「森の戦士ボノロン」などに、FSC認証紙を使用しています。

FSC森林認証とは、適切に管理された森林や、その森林から切り出された木材の適切な加工・流通を証明する国際的な認証制度です。今後も環境に配慮した認証紙の活用を拡大していきます。



環境意識向上への取組み

従業員の環境意識の向上を目的として、「eco検定®」取得キャンペーンを実施しています。本キャンペーンは、eco検定合格者に対して受験料を全額会社が補助するものです。2014年度からのeco検定の累計合格者数は110名になりました。

※ 東京商工会議所が主催している環境に関する検定試験。正式名称は環境社会検定試験®。

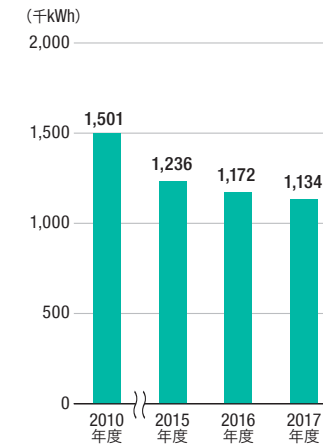
オフィスでの環境配慮

本冊子の製造・流通・廃棄に要するCO₂排出量10,064kgは、東日本大震災復興支援型国内クレジットを用いてオフセットしています。

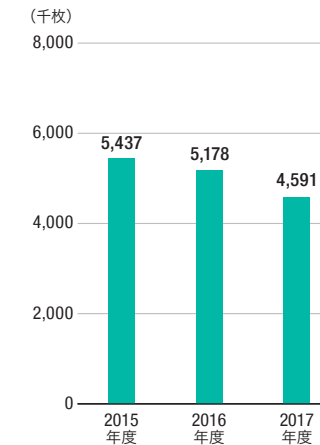


環境指標/電気使用量※

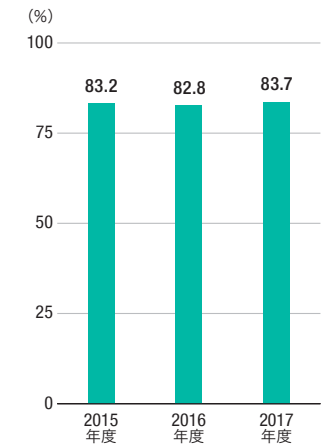
(オフィス、有人店舗、直営ATMコーナー)



環境指標/OA用紙購入量



環境指標/事務用品のグリーン購入比率



※ セブン銀行は、政府の要請などを参考として、2010年度を基準年にしています。全国に24,000台以上設置しているATMについては、ATM設置施設の電気を使用しているため、グラフに含んでいません。

従業員による環境保全活動

地球環境保護や地域社会に貢献することを目的に、従業員は当社独自の環境活動をはじめ、グループ全体による各種ボランティア活動に積極的に参加しています。

2017年9月、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラムのご協力のもと、当社従業員とその家族83名で荒川の水際約100mを清掃しました。ペットボトルやレジ袋、包装容器などのゴミを回収した後、拾ったゴミの種類と数を検証し、ゴミを減らすためにできることについての振り返りを実施しました。



荒川での清掃活動